

12月末の人口	
世帯数	七二四
男	一、〇二六人
女	一、〇〇三人
計	二、〇〇九人

# まじ

報

昭和51年1月25日発行  
 第五七号  
 編集 馬路村教育委員会  
 発行 馬路村教育委員会  
 印刷 安芸印刷



## 朝日出山の 大杉の

所在地 馬路村馬路  
 所有者 国有林  
 胸高周囲九・二〇余、樹齡推定  
 七百年といわれる。  
 永録初年、馬路城守、若狭守が

安田三河守と交戦、三日にして落  
 城、遁れこの大杉附近にて追手の  
 刃にたおれたと伝えられ現在若狭  
 神として祭られている。



# 新しい年を 迎えて

村長 小松千歳

馬路村の皆さん、明けましておめでとございます。昭和51年の新春を迎え、つつしんで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は台風5・6号により、曾てない災害を被りましたが、これの復旧を始め、村政に対し一方ならぬ御協力を賜りまして、まことにありがとございました。厚く御礼を申し上げます。

皆様方の御協力のもとに、災害の復旧の見通しもでき、村道や林道、農道の整備も順調に進んでおります。又下水や用水路の整備、村民運動場、青少年旅行村施設等のスポーツ施設、レクリエーション施設の新設を始め、西川、中川地区の移転地の造成、明善地区の簡易水道施設の新設も始まっております。

社会福祉面では老人医療費、或いは身体障害者医療費などに国、県の政策のない村独自の政策も行って参りました。

ご承知のように馬路村は、林業によって生きている村であります。林業をとりまく諸情勢は、非常に厳しいものがあります。その

中で大きく問題となっており、白ろう病対策もようやく国、県において、徐々にはあるが取り上げられて参りました。

又、馬路村森林組合では、林業作業員に対する政府管掌の健康保険加入に踏み切った事は、民有林事業従事者に対する大きな待遇改善措置として、評価されております。

昭和五十一年も、災害復旧に全力を挙げるのは勿論、道路を始めとする、基盤整備を始め教育施設の整備、福祉行政の充実等、引き続き積極的に推進すべく、決意を新にしている次第です。

馬路村は毎年に人口が減少しております。けれども、村内二千人の皆様が望んでおります、健康で明るく、住みよい馬路村を作るために、最善の努力をする積りでおります。

どうか、本年も村政に対し、御理解と御協力を御願ひし、皆様方にとつて最良の年となりますよう御祈り申し上げて、新年のごあいさつと致します。

昭和五十一年一月一日

明ましておめでとございます。昭和五十一年の新春を迎えるに当り、村民の皆様が新年の御喜びを申し上げ、ますます御健康で御繁栄をお祈りします。

昨年を振り返りかえつてみますと、村長選挙に引き続き議会議員の選挙が有り、新たな議員が選ばれ、議会としても村発展と、村民の福祉の向上の為に努力してまいりましたが、八月には台風五号、六号の来襲を受け、一時村は孤立し、食糧、日用品等自衛隊のヘリコプター、人力によって運搬いたしました。地区の県議、県土木等の御高配と、村内各種団体等の御協力により、短期間に復旧いたしました。

この間に、職員一同、不眠不休で懸命の努力をなし、昨年末には災害査定も完了しました。村工事で、工事総額は七億五千万円で、三ヶ年で復旧工事は完了の予定です。

議会としても、今回のような大きな災害は初めてであり、執行部を監視する為にも勉強の必要があると、県地方課の財政担当者を講師に招聘し、研修会を開いて研修の結果、制度に該当すれば、村費の持ち出しをしなくても、よいことも判りましたので、災害の為に一般行政へのしわよせはないものと考えております。

## 感 所 頭 年

本年は、災害復旧工事の他、馬路小学校の移転に伴う新築も予定されております。

中川事業所の移転地の整地工事も完成し、一部は移転できる見通しです。

尚、昭和五十一年度の予算編成前に、議員の意見もまとめて、執行部と協議いたしましたと考えておりますが、御承知のように地方財政は、日本経済の不況の波をもろにかぶり、かつてない窮乏が予想されておりますが、村民の福祉の停滞することのないように、最少の経費で最大の効果をあげるよう、努力してまいりたいと考えますので、皆様の御指導と御協力をおねがいします。

最後に臨み、重ねて皆様の御多幸をお祈りいたしまして、年頭のごあいさつといたします。

昭和五十一年元旦

## 日 誌

●十一月●  
4日 村内小学校陸上交歓会(魚梁瀬)

4日 9日 第三回郡市合同青年のバス(山口県)

9日 中芸地区子供会ソフトボール大会(馬路村民運動場)

9日 中芸消防組合消防大会

14日 はしけん大会

16日 熊野神社奉納相撲大会

18日 魚梁瀬小学校移転記念日

19日 日本舞踊・マンドリンクラブ発表会(馬路公民館)

20日 日ステレオ・コンサート

22日 23日 第三回馬路村文化祭

23日 高知県知事選挙投票日

●十二月●  
16日 馬路地区卓球大会

18日 中芸地区中学校駅伝

24日 25日 定例村議会

## 社会教育指導員募集

教育委員会では、非常勤職員社会教育指導員一名を、募集いたします。

性別、学歴は問いませんが、高卒程度の学力を有する方で、社会教育の経験(社会教育団体の役員経験者も含む)のある者、又は、その熱意をもつ方を希望します。

月額報酬は五万一千円で、週三日程度の勤務、任期は本年四月から三ヶ年です。

詳しくは教育委員会へ、お問い合わせ下さい。

なお、昭和五十一年二月十五日までに馬路村教育委員会へお申込み下さい。

# 十二月定例議会で決定

## 特別職報酬・給料改正見おくる

### (一般職員べ・ア平均十二・二四%)

十二月定例議会は、十二月二十四日、二十五日開催され、村長提出の昭和五十年馬路村一般会計補正予算(第五号)など八議案、馬路村議会規則の改正などが審議され、いずれも原案どおり決定しました。

一般会計補正予算の額は、四千三百九十五万五千円で、総額六億七千九百九十三万五千円となりました。補正予算の中で、主たるものは台風五・六号災害の復旧事業費二千四百六万一千円で、本年度災害復旧事業費は累計一億四千六百九十六万八千円となりました。

次に、人事院勧告にもとづく職員の基本アップは平均一二・二四割の引上げて四月から通用されます。なお、一般行政職員の平均年令は三十四歳、平均給料額九万八千円となっております。

議会議員等特別報酬、村長など三役、教育長の給料は、未曾有の災害復旧に多額の経費を要するなど、財政難のため改正が見おくられました。



十二月の議会活動は次のとおりです。

〓十二月〓

13日 議員全員協議会

(馬路村特別職報酬等審議会条例について)

24日

昭和五十年第八回馬路村議会定例会

25日

(馬路村議会会議規則等について)

十九名の出席者があり、盛大に行われました。

当日は、式典のあと、第五回高知県青年の船記録映画を見て、「私達の馬路村」をテーマに座談会を行いました。

若者達から——馬路村は自然環境にはひじょうに恵まれているが、職場がない。娯楽施設がない。——等々の意見がありました。

親元を離れての生活に不安はないかの質問に対しては「干渉されず、気楽でいい」とは現代っ子らしい、ドライな一面もうかがえました。

皆様の祝福と、あたたかいご指導をうけ、立派な大人に成長することと思えます。

成人

この議会では、職員基本アップによる、昭和五十年国民健康保健特別会計補正予算(第二号)

村出身者及び、村内の該当者全員を対象に行っております成人式を、一月三日、馬路公民館で行いました。

若者の対外流出により、村内で成人式を迎える者が年々、減少してゆくなかで、今年、

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

成人

## 20歳になったら 国民年金に加入しましょう

二〇歳になった青年を励ます意味で一月一五日が国民の祝日とされています。二〇歳になるとその日から、成人として多くの権利が与えられ、義務が課せられますが、国民年金に加入することもそのひとつです。

最近の日本は、世界でも指折りの長寿国になりました。これは医学の進歩や、医療保険の普及、所得が伸びて豊かな栄養がとれるようになったためですが、そうなるとなおさら、老後の生活を考え準備しておくことが必要だと思えます。

若い人は、老後は遠い将来のことと考えているようですが、老後の設計は青年期からはいじめがおこななければならない。年金制度はその設計を国と国民が連帯して行うために設けられている制度です。

このようなことから、国民は必ず何かの年金制度に加入する建前になっております。ですから、二〇歳になった人は、会社や官公庁に勤めて厚生年金保険や各種共済組合に加入している人、その配偶者、昼間部の大学生などを除いて必ず国民年金に加入しなければなりません。また、他の制度の加入者の配偶者や大学生などは、希望によって加入できることになっております。

二〇歳になって国民年金に加入しなければならない人で、まだ加入していない人は、今すぐ加入することをすすめします。

## ごめい福をお祈りします

### ご出産おめでとうございます

乾谷	氏名	性別	行年	亡月日	世帯主	続柄	部落
乾谷	柴郎	女	49	12・20	善正	妻	影
乾谷	春好	女	77	12・26	政長	母	朝日出
五百蔵	卓三	貞子	隆	二男	10・30	ヤナセ	
乾	朗	由美	未来	長女	11・5	相名	
大野	慎介	美智子	美幸	長女	12・17	相名	



# 広場

樹木の仲間では冬眠からさめるのが一番早く、既に三月頃から採取にはいり、ふつうは四、五月頃まで。

## ⑥ 先生のはなし "ニワトコを食べよう"

は小葉からなる奇数羽状複葉で茎に対生。全体に特有のにおいがある。

食用部位は若芽、ずんぐりしたはかまの間から、若い芽を出したばかりのものが最適。量感の豊かな山菜で、味、舌ざわりともにちよつと類がない珍しいものである。強壯食品としても知られている。

はかまを取って、そのままつぶらにしてもうまい。さつと塩ゆでしたものは、ゴマあえ、ゴマみそあえ、マヨネーズあえ、クルミあえ、ピーナツあえ、白あえ、酢みそあえ、酢のもの、その他油煮、バターいためなど応用範囲はすこぶる広い。

図示したものには花がついている。四、六月頃、淡緑白色（時に紫緑色）の細かい五弁花を、小枝の先端に散房花序につける。これは若芽といつしよに食べられる。花後、球形の液果を結び、美しく紅熱する。これは家庭酒（果実酒）の原料とする。



枝つきの若芽  
ニワトコ  
Sambucus Sieboldiana Blume

若芽をもし取ったあとに、間もなく二番芽が育ってくる。これも採取してよろしいが、次に出てくる三番芽は残しておく。そうしないと親木が弱るからである。ウコギ科のトラノキの若芽採取についても同様、三番芽は残す。これが

山菜採りのマナーである。  
魚梁瀬 島崎英夫

## わが郷土を語る

魚梁瀬 山崎 正夫

4

南路志。門国の部、九ノ三より 詒謀記事云、当国安芸郡に柳瀬と云所有奈半利の奥なり、其所に門脇左衛門と云隠士あり、古老の申伝に、昔源平の乱に門脇殿ひそかに此所に潜入し給ふその末葉とぞ。

前国主野中良繼訪れしに、自宅に待受ることを憚り、当所の村長の宅にて謁しけるとなり、野中氏にもさすがの人なれば、待遇甚だ厚く、饗応までも心を用ひ給ふ趣相になりしと也。門脇氏にも昔の余風残りて少しも落ちぶれたる様

子なく、とかく殊勝に聞えけるとなり。美代氏の物語也。 笑草に云、昔平家の落人、当洲に通げ隠たる人々多し、韭生柳瀬の里は、人里遠くて、門脇中納言教盛落来り隠居給ひしとて其事跡柳瀬の里にあり、八幡の社有て教盛掃京を祈られし願書あり近世まで存して、祭日には其の願文を社僧讀りとかや、中納言の子孫と号する者あり、古器など持伝へり、門脇岩之助という、その居所をば里人も御所と尊称也りとかや。教盛着用の甲冑正符皮緘の甲也。

覆載院君の御世とやらに、この者を召出され官所に招て、食膳など給て試みられける所最早世に下て久敷、貴族の胤の形もなくて、その形卑劣に有しかば只扶持を給りて無名の列に扱たり。其の甲冑をば武庫に納められ今世に伝りて有と云う。(下略) 当村百姓 五左衛門所藏古文書 任 屋な也 三郎左衛門殿 弘治元年三月三日 元盛花 此の文は、この土地のことと、韭生柳瀬という所を一緒に記事としています。韭生柳瀬は現在の物部村で、永瀬ダム築造によつて、当時横山村大柄の対岸にあつたこ

の柳瀬部落は、水没のため移転しました。

そこに、居住していたのが、門脇を名乗る人達です。その門脇岩之助という者が古器などを持ち伝へたとあります。

また、前記の始めに、門脇左衛門という隠士ありと書いていますが、ここで、先の門脇家の系図を再度見ますと、左衛門三郎が盛旧となつて十八代目に出て来ています。

十七代の脇書には、分家して来たとは書いていませんが、十九代からは旧居宅に生ると脇書があり、二十代の盛信も同じく旧宅に生れ当村の角田氏の女を娶るとしてきます。

そして二十一代の盛宗は、系図にあるように、性質は、狂暴で阿波に抜け出し、武術を修業したなどの事が露見して、奉録を召し上げられたとあるので、一旦は家を取りつぶされたのではないかと考えられます。

そこで、その子文之丞が堯盛として二十二代を継いだのですが、この人は病死しました。再び、本家にいた甥の岩之助を連れて来て跡を立て、門脇教明という名に変わっています。この人は、系図書にもあるとおり、大祖の品具を持ち伝へているとしております。

元禄初年に旧居宅に生れて、この土地に来て門脇の当主となつた

誤で、貞享二年に、山内豊昌公に先祖の鎧一領を献したとあります。ここまで書きますと、思い出されるのが、菲生柳瀬の門脇岩之助のことです。大祖の古器など持ち伝へてとありますので、魚梁瀬の門脇岩之助と同一人物であることが判るようになりました。

また、魚梁瀬の十七代から二十二代までの門脇家に古器や大祖の遺品は、何一つ書いてありません。一番先に門脇家は魚梁瀬に分家して来たのであろうと想像したのは、この事で推理したのです。

年代から申しますと、熊野権現を勧請したという棟札に、永正十五年十一月十五日とあって、願主は、盛貞であると惣領の左衛門三郎が書いてあります。この棟札の中に大郎右衛門とあるのが十七代の貞盛のことです。

永正十五年は千五百十八年足利時代ということになります。十八代の盛田の所で修理助が橘国虎の子息千寿丸が阿波へ遁亡の折魚梁瀬に寄り馬路跡目に別義なしの文書を書いたのは、永禄十三年なので千五百六十九年に相当します。ここでは、二代の間は五十年を経ていきます。

また、岩之助が養子となつて門脇教明となり、鎧を献上したのが貞享二年とありますので、これは千六百八十五年なので、十七代から二十二代までの五代間は、百十

六年を経ていきます。

門脇家の系図では、連続して血筋を伝えていないのは、その間の事情が思うようにならなかつた事に由来していると推測しますが、何よりも、一族が分家しなければならなかつた事由が何んであつたのかを考えなければならぬと思います。

言いかへれば、増えてゆく同族の生計の維持と、新しい土地を探し、一族を分家さし自分達の定着できる土地を造ることにあつたのではないかと考えられます。

すでに、人里近くには、そんな場所はありません。勢い山深い土地に活路を開くほかないので人の手の入らない土地を求めて歩いたものと思われまふ。門脇一門が、源氏方の探索の眼を逃がれるためと称して、谷を越え、山を越えて、魚梁瀬の奥に来たと伝説されていますが、系図にあるように、食糧など安芸大郎次郎から贈られたとして、安芸兄弟が、地元土佐の安芸ならば別に恐れたり隠れたりする必要は少しもない訳で、好んでこの山奥に住むことこそ、安芸大領とは、土佐の国の安芸の地頭ではないということになるのではないのでしょうか。

土佐国編年記事略で、土佐の国の住人でもなく、安芸守の子息にもあらずとあるのが真実だと考えることによつて、いろいろな疑問

点が、スムーズに解けてくるので

また、伝説、系図に、史実に、阿波国が、幾度か出て来ますが、ここでは阿波という直ちに、東部の海部郡を想像しているようですが、実は反対側の三好、美馬の両部こそ、古い時代最も短い距離にあつて、往き来の多かつた所です。

平家一族の遁走に、必ずといつてよい程、祖谷という地名が出てくるのですが、祖谷の東西両村が現在には三好郡に属していますが、往時は美馬郡にあつたことはすでに知られており、更に阿波に近い菲生から山越しに伊尾木川の奥に出て、魚梁瀬の西川に来るのは、比較的短距離であることは狩獵人の知るところです。

門脇家の分家論は、推理としては冒険ですが、そう推測しなくては系図の説明も、古文書の記事も一致しないからです。

十七代貞盛の父盛貞がこの土地に来て、熊野権現を勧請したと棟札にあるのが永正十五年ですが、系図では厳島大明神であるとされています。また側書に、文治元年

平氏敗亡の時とありますが、この系図の側書は、何々といつと、第三人称を用いていることから、この系図が後代に書かれたことを示しているのではないかと考えます。平氏敗亡から永正十五年まで、

三百三十年余り経ており、一二四〇年代に流布された、「平家物語」は充分読まれていたことと思ひます。

そこで、この系図の筆者は、さもそれらしく書き加えたのであろうと想像されます。平家物語をそのまま、壇の浦の合戦が文治元年とされているので系図に文治元年としたのでしようが、本当に平氏直系の者なれば、むしろ寿永四年を使うでしょう。

当時西日本では旧年号を用いるものが多く、東日本では新年号をいち早く使っています。

寿永四年か又は、元暦二年が平氏一族の都落ちから敗戦までの年号ですから、途中で改元されたことは、平家側には知られていなかった訳で、他の説で寿永四年とか元暦二年とあるのは、その理由によるからです。

元号を示しますと、寿永三年は四月に改元されて元暦年になり、元暦二年八月に文治と改元されています。従つて平氏敗亡は元暦二年三月ですから、文治元年は後世の人の作爲によると言はねばなりません。

今までに、文献や古文書、棟札や系図等によつて門脇家分家のからくりを推理した訳ですが、次回は魚梁瀬の地名についてお話ししたいと思います。

### 第4回 はしけん大会

横綱……北川益亥

- 一位 馬路議会チーム
- 丸山 裕朗
- 尾谷 明男
- 尾谷 利晴
- 二位 馬路営林署Bチーム
- 清岡 祇信
- 田中 慶徳
- 宗石 国一
- 三位 岩城組Bチーム
- 福岡富美男
- 五味 守男
- 上総 忠

馬路村はしけん愛好会主催、馬路村商工会共賛による第四回はしけん大会が十一月十四日、公民館で行われました。二十五チーム、七十五名の参加のもと好勝負がくりひろげられました。結果、今年の番付および成績は次のとおりです。

- 横綱……北川 益亥
- 大関……岩城 敏郎
- 関脇……福岡富美男
- 団体戦



# 青年の船土産はなし ③

第五回高知県青年の船は、七月二十四日から八月七日までの十五日間、二百七十一人の若者を乗せフィリピン、香港を回った。

本村からは、岡田元生君、乾芳さんと、特別研修班長として西野教育長が参加した。二回にわたって土産話を投稿していただき、今回は最後に乾芳さんより香港を中心に報告させていただきます。

この研修によって私は、学び得る楽しみ、友情、感動、そして今の生活からは考えられないようなフィリピンや香港の状況など、私にとって有意義にすごせました。



香港にて(右から)

西野 眞司  
乾 芳  
岡田 元生

れ、船よいもせず、鯨を見たり、虹がかかったり、日の出を見たり本当に船長さんのおっしゃられたように、湖水を行くような、すばらしい旅でした。

現地へ着くと、フィリピンでのハプニング、下船できない友人達との別れ、生活の大きなハンデに、とまどいを感じた事。  
そして、朝のつどいの言葉  
「おはようございます」  
「おはよう」と大きな声が、返ってくる。何か一瞬とまどいを感じたような、すがすがしいような、変な気持ちです。この十五日間でのいろいろの心の動きを、忘れず大切にしていきたいと思う心は変わりません。今も!

現地研修では、香港の事を書く事にします。  
八月二日 香港入港  
一瞬目を見張るような高層ビルが山の中腹まで建ち、なんとも奇妙な景観です。  
「ああ、これが香港か。」そんな気があつたようです。夜景は、すばらしく「百万ドルの夜景」それはあまりにも違いすぎる生活差を感じさせられました。そして、水上に浮かぶシーパレスと

## 港

## 芳

## 香

事前研修、船中とハードスケジュールにもかかわらず、良くやったものだと、我ながら感心しました。それは、素直にみんなについて、いったかじゃらないかしら?  
現地へ着くまでは、天候に恵ま

に日本語を覚えさせ、「千円、チップ」とせがむそんな子供達が、悲しく見え何かしら自分達がとても優雅な生活でもしているようにした。  
香港での生活は、人間の二面を見せられたようです。だから日本人の持つ、やさしい心を忘れない人間になりたいと思います。  
そして最後に、「これで良いのかと疑問を持つ事が青年ではないか」という言葉が一番心に残っています。  
話しつぎる事のない十五日間の旅を、私の人生に一日一日消化していけるようにになりたいと思います。又青年の船のような、すばらしい催しを企画して下さった皆様にお礼を申し上げます。そして、新しい青年の船が誕生することを期待します。

まちや村を  
きれいにし、  
ものを  
大切にしよう。  
標語  
するより、ひろう身になり  
町づくり  
ちよつとまで そこにするな  
ちらかすな  
このくらいと 思うつもりが  
山となる



## 魚梁瀬俳壇

年の暮

浪江 良き師得て句教はりし年暮る、  
吉子 遠き吾子待つことの中に年の暮  
唯江 出逢ひあり永別ありして年暮る、  
鉄野 木守柿一つ残して年暮る、  
定功 過ぎし日をふと想ひ出す年の暮  
小菊 捨て切れぬ明治の性で年暮る、  
義雄 父逝けり孫誕生し暮る、年  
正夫 年暮る、悔恨の日々重ねつ、  
勝子 送り出て歳末の街そこらまで  
琵琶子 歳晩の経ねんごろに納めける  
英夫 年の瀬や納戸に亡母の箱枕  
賀状  
風子 寄せ書の施設の子等の賀状かな  
正夫 年来の友逝き賀状遂に絶ゆ

# 保健婦室



成人の歯は、言うまでもなく永久歯であつて一生の間使う歯です。永久歯は十二才ころに前から七番目の歯（第二大臼歯）が生えて上と下それぞれ十四本づつ合計二十八本がはえ揃います。

その後十九才から二十才ころになつて親知らず（智歯）といわれる第三大臼歯が一番奥に生え、これが上下左右に揃うと合計三十二本になります。しかし、親知らずは人によつて生えない事があります。

歯にはそれぞれ名前があつて、形もその歯の働きによつて特有です。これらの歯が左右に対称的に並んで歯列を形づくりに、上と下の歯列が正しく咬合をさつて食物をかむ事が出来るのです。

（歯の構造）  
一見硬い物体に見える歯も、その構造を見ると、口の中に見えている歯冠部と、顎の中に植っている歯根部があり、歯冠部の外側を被っているのがエナメル質であつて、一生の間食物をかむ力に耐えて歯を守る部分です。そのエナメル質は人体の組織の中で最も硬い

## 歯 I

もので石英くらい硬さがありませんが、むし歯が始まるのもこの部分です。次にエナメル質に被われている歯の内側の大部分を形づくっている象牙質があります。象牙質は骨よりは硬いのですがエナメル質ほど硬くありません。その為むし歯がエナメル質から象牙質に達すると歯が溶かされて急激に広がります。象牙質に固まれた歯の真ん中には歯髓腔という空洞があつて、生きてゐる歯では歯髓（しんけい）と呼ばれる軟かい組織が入つています。歯髓の中には歯の根の先にある根尖孔と呼ばれる小さな孔を通じて体の方から血管やリンパ、神経が入り込んで歯に栄養を送つています。しかし、むし歯が象牙質の深部まで達すると歯髓は炎症をおこし、その為ひどい痛みを感じます。こうなると治療で止むを得ず大切な歯髓を殺したり、抜いたりする事になつて歯は死んでしまひます。

歳冠部の外はエナメル質で被われている事は前に述べましたが、歯根部の外側はセメント質で被われています。セメント質には歯と顎の骨の間にある歯根膜の線維が入り込んで歯をしつかり顎に結びつけています。その外側を歯肉（歯ぐき）が被つて歯にしつかりと付着しています。この様に歯のまわりをとり巻く歯根膜、歯槽骨、

歯肉などは互いに密接な関係をもつていて一括して歯周組織と呼んでいます。歯の病気の歯槽膿漏というのはこの歯周組織がおかされる病気で、

（歯の働き）  
一、咀嚼（かむ事）  
かむ事は第一の消化と言われる様に食物はかむ事によつて胃の消化もよくなり、腸における栄養分の吸収がよくなります。これは食物が噛み砕かれると唾液とよく混ぜり消化酵素がよく作用するからです。むし歯や歯に異常がある場合には、さらにかむ事の必要性は高くなります。健康な歯でかむのと同じ能率を上げるのに大白歯（奥歯）が一本欠けている人では、歯の揃つている人の約二倍、総入れ歯の人では約五倍のかむ回数が必要であるという実験があります。自分ではよくかめると思つていてもむし歯や歯槽膿漏があるとかなりかむ能率が低くなるわけで、かむ為には健康な歯がいかに大切であるかがわかります。

二、発音を正しくする。  
歯のよい言葉という様に発音や発声には歯や口が大きな役割をしています。その証拠には、前歯が抜けた場合、タ行、サ行などの言葉がはつきり発音出来ません。歯が揃つていても上下の前歯の咬み合せが異常に用いていたり、歯の間が大きくすいてゐる場合にも

発音がもれて聞きとりにくい言葉になります。きれいな発音をするには健康な歯と、よい歯並びが大切なわけです。  
三、表情を美しくする。  
歯は審美的に大切な役割をもつています。上の前歯の形は、その人の顔の輪郭をさかさまにした形で顔と調和がとれているといわれています。

### 第五回馬路地区卓球大会

第五回馬路地区卓球大会は、馬路体育会の主催により、十二月十六日、馬路体育館において、八チーム、五十名の参加で盛大に開催されました。

成績結果は次のとおりです。

- 優勝II役場Aチーム  
（中川万士、丸山裕朗、畠中郁穂、乾 若美、尾谷直子）
- 準優勝II井上チーム  
第三位IIバレ一部  
第四位II役場Bチーム  
第五位II森林組合  
第六位II郵便局チーム  
第七位II学校チーム  
第八位II山中道場

優勝した役場Aチームは、昨年につづいて二年連続優勝の榮譽に輝き、優勝トロフィーを獲得いたしました。

小菊 老といふもの、静けき賀状手に  
吉子 友垣の忘れし顔や年賀状  
浪江 逢へぬま、遂に賀状も絶えにけり  
唯江 句の便り書き添へられし賀状かな  
鉄野 初孫を得しとて友の年賀状  
勝子 さはやかに年明け賀状届けきけり  
琵琶子 教職の身のありがたし賀状受く  
英夫 あらがひし人の名もある賀状かな  
初句会  
風子 紅ほのと校長夫人初句会  
小菊 耳遠くなりしも寿とや初句会  
吉子 ともかくも心のふれあふ初句会  
浪江 山狭に一灯集ふ初句会  
唯江 朗々と師の披講よし初句会  
鉄野 待ち待ちし今宵円かに初句会  
勝子 初句会心せかれて汽車に乗る  
琵琶子 手作りの馳走になごむ初句会  
英夫 それ／＼に粧のあり初句会



# 道標 みるべ

=13=

## 部落に対する あやまつた考え方

部落の人たちは、日本人とは人種が異なっている人たちであるという考え方。

特にこの中でも、朝鮮人の子孫（神功皇后の三韓征伐や豊臣秀吉の朝鮮征伐の時の捕虜の子孫）であるとすると。

まず、新憲法のもとでは、すべての人間は法のもとに平等であり、人種が異なっても差別される理由とはなりません。だから、朝鮮や中国、そのほかどの国の人でも、差別されてしかたがない。

という考え方はあり得ないのです。このことは別にしても、日本列島に人間が住みついたのは、すくなくとも一万一千年以前といわれています。この間、シベリア方面からの北方系民族や中国、朝鮮、蒙古など大陸系の民族、さらに南方系の海洋民族などが長い年月の間に少しずつ日本列島にやってきて、これらの民族が互にまじりあい、雑種混血の民族として現在の日本民族ができたことは、学問上の定説となっています。

わが国は、古代から外国（特に朝鮮や中国）と交通し、産業や経済、政治その他文字や宗教等のあらゆる文化をとり入れて今日の繁

栄をきずいてきました。これらを伝えた外国人（のち大部分は帰化した）はたいせつにとりあつかわれ、重要な役職や土地を与えられており、日本の皇室にも、上流階層の人々の中にも、これらの人々の血筋はたくさんはいつてきてお

ります。したがって、当時の日本では、この人々を差別するどころかそれらの人々にあやかろうとして、自分の姓や名前を変えたりした人もたくさんあるくらいです。

日本の皇室でも恒武天皇の生母、高野新笠は百済の帰化人であり、嵯峨・仁明天皇の妃も、それぞれ帰化人の血をひいていると伝えられています。

平安時代のはじめにだされた新撰姓氏録（当時の畿内各地の名家の家系を分類した本）のなかで、千八百十三氏の名家といわれている家の成り立ちが調べて書かれています。この内わけは、皇別（天皇や皇子のわかれ）三百三十五氏、神別（天神地ぎのすえ）四百四氏、蕃別（諸蕃ともいわれ帰化人のすえ）三百二十七氏、不詳が百十七氏となっており、約三分の一近くが帰化人の子孫でしめられています。このことから考えても、

帰化人の社会的地位がどの程度であったかがおわかりのことと思います。

また、応神天皇の十四年に、弓月君は百二十七県の民をひきいて百済から帰化して大陸工芸を伝え、秦氏の姓を賜ったことが日本書記にのせられております。土佐の長宗我部氏も秦氏の出であるといわれておりますように、この人びとの子孫は全国に分布したことでしょう。奈良朝以降は養老雑令によ

って、帰化人や亡命者は東国に移され、これらの人びとは東国の開拓に従事しましたが、これらの地方には未解放部落はあまり多くありません。蝦夷や熊襲なども部落の人の祖先だという説をとる人もありますが、エゾのいた東北地方やクマソのいた南九州にはこれらの子孫が多く残っていると思われるのに、これらの地方には未解放部落がすくないことによつても、部落の人びとは異民族や先住民の子孫であるという説の誤っていることがわかるでしょう。

中国地方や北九州地方は、朝鮮とはわずかに二百里メートルにもたりない海をへだてているだけで、古代からひんばんに交通

や通商が行なわれ、文化や人の交流も多かったことでしょう。しかもかの国は、当時の日本にくらべ、政治、文化、経済、産業のあらゆる面での先進国でありましたし、皮膚の色や体位骨格でもきわめて似かよっていますので、それほど無理なく同化したものと思われ

ます。それにもかかわらず、朝鮮の人たちをべつ視する考え方が現在でも我々日本人の心の奥底に残っており、それと部落差別とを結びつけた俗説がまことしやかに流布されていますが、これについては項を改めることにして、ここでは、私たちすべての日本人の血筋の中には、朝鮮や中国系の血筋もはいつており、部落の人たちだけが朝鮮人の子孫であるなどということ

は全くの誤りであり、科学的な根拠のないことをはっきりさせておきたいと思えます。

### 山火事防止

たばこのポイ棄て止めよう



## 電気こたつ

### ■電気こたつの電気料金のめやす

消費電力	1日これだけ使うと	1カ月の消費電力量	1カ月の電気料金
400W	3時間30分	42 kwh	578円

正しく使いましゅう

1.逆さにしないこと

2.半がわきの衣類を入れないこと





# 教育の窓

本宮町は合併により人口五千八百人の町だが本宮中はその中心にありながら、生徒数三十七名、通学時間は十五分以内の小学校で、運動場は馬路中の $\frac{1}{2}$ の広さもあるだろうか？ 校舎も古く、かつ施設々備も不十分で見るべきものはない。

学校にいた時は清掃の時間で教師が生徒と一緒に掃除をしながら「お客さんがおいでだから恥ずかしがらず挨拶せんといかん」とか言っていた。ビニールでつつんだ給食パンをみかけたので「給食はおいしい？」と聞くと「おいしい」と言う。聞けば週二回は米飯とのこと、うらやましい限り。

授業もみせてもらったが教師の言葉のはしはしに人権尊重、労働を重視している点がよくとられた。しかし、生徒の反応、活気は今少し乏しいようにみえた。休み時間、元気に遊ぶ姿をみると本当はもう少し授業中も活発なかもしれない。

この学校は同和教育を推進することを目標にし、それを達成する

## 本宮中学校研修記

### 馬路中学校

ために、  
①基礎学力をしっかりと身につけさせよう。  
②科学的認識をつちかう。  
③命を大切にすることを確立しよう。

④仲間と共に考え、行動する子を育てよう。  
⑤恵まれない子供の要求を大切にしよう。

をにかけて実践されている。一、二時間の授業ではその本質をみることは出来なかつたが、合同の会での公民館々長の同和部落である「若部落」とその解放への闘いの話し、地域共闘、同和教育について、薄暗くなるまでの話し合いに参加された十名の教員の熱心さ、精力的な取り組みに心を打たれた。

毎年人権にかかわる文集「人権お話会作文集や麦めし」などを発行し、解放する子供の育成に努めている。例えば三年女子の作文の終わりに「水面は平であるように人間も平でなければならぬ、人間はみな同じ、どの人がえらいと

いうことはない、だから部落民と違って差別することはまちがいだと同時に部落民がえらく他の人が悪いということも絶対まちがいのだ、また部落以外はみな差別者だ、などどうしているものか、人と人、考えのちがいが宗教のちがいで、言葉のちがいはあっても同じ人間、同じ合う心がある限り、いつの日か、どんな差別もなくすることができよう。その日が一日も早く来るように我々は努力をしようではないか」と、ものの方、考え方がしっかりしていることがわかる。

また公民館々長達からの若部落についての話しは次の通りであった。  
若部落は名の通り急峻な日陰地に杉皮ぶき、杉板の壁、畳なしの小さな家五十戸位がみついていた。部落民は本宮大社に奴隷のような状態で重労働を強制された。大地すべりで全滅の被害をうけた時、移転を考えたが「若の者が大社より上流に移転することはけしからん」という猛反対をうけ実現しなかった。しかし運動の結果八十五年ぶりに十億円の集落移転大事業が完成に近いとのこと。

これが達成できたのも劣悪貧困の極みといえる生活の姿は若部落だけではない。本宮村住民の八割以上が若部落と同じ生活実態だと

## 全国図書館大会

### 馬路小学校

十月二十二、三日島根県松江市民会館にて行われた大会は、幼児より小、中、高校、大学一般社会成人までの幅広い、図書館教育についての会であった。

子どもの読書の必要性は、読書によって得る感動の積み重ねが、感情形成、人間形成にかかわってくる。

生涯教育の中で、良書をどう与え、どんな経験を与えるべきか、学校、家庭、社会で考えていかねばならない。

そのために、子ども達に、よい読書経験をつませ、読書の習慣づくりは、如何にしたらいかがが問題になる。

地域共闘を大きく発展させたことにある。即ち、行政側の姿勢、部落民の意識と行動、一般市民の正しい認識と理解をぬきにしては成功するものではなかった。

今回の研修では人権の尊厳、正しいものの見方、考え方を育成すること、そのためには生きて働く基礎学力を十分につけることの大切さ、教職員意志統一と地域活動の大切さを改めて教えられた。

十二部会に分れている中で、第二部会の二分科会が読書の習慣づくりであったので参加。

松江市の小学校の女先生が、特に低学年については、子どもの扱いやすい本、絵の美しい本を与える事。本の購入には、新聞等の「絵本の与え方」等を参考にした。絵の美しい創作童話、図鑑、雑誌等何でも用意し、子どもが興味を持ち必要に応じ、手軽く、本が読めるようにした。家庭では、時には、母と子で遊びの中で「お話しごっこ」をしてもあったり、入浴中の会話でも本のお話しや親子も本を読む時間をつくった等の発表。

一人の先生は、幼児期の習慣は続かない。中学年、高学年に於て習慣づけが必要である。

美しい環境、楽しい雰囲気づくり等読書環境を整える事が大切、又読みきかせは、低学年だけでなく、高学年も必要、読みきかせには適した物語の選択が大切だ。小学校の高学年は、知識欲のさかな時であり、男女の読書内容も変わる。かたよつた読書ではだめ、バランスの取れた読書が必要、子

どもと対話をし親しみを持たし、読書習慣は、家庭が原点であり、家庭、学校、図書館が一体でなくてはならないと結んだ。

母親の立場よりの発表では、子どもの親しめる本を与える。本の選択は、新聞による紹介を切り取り参考にする。子どもは、本に向うと同時にテレビにも向う。怪物マンガを見る。大昔の飛龍である

事を図鑑で知り、本に向う、両親子ども共読書すき、購入には、衣服費を削ずる。又図書館を利用する。又旅行との関連づけ、偉人、史跡めぐり、野口英世生家見学英世の伝記を読む伝記本へと向う。

毎日三十分でも読書、読書について親は口出しをしない。虹のお話しクレパスで色を変え話を交える。テレビよりの読書の動機づけは大きい。中学生の二、三年は、読書習慣が、こわされる。人間形

成上必要であるのに、受験勉強のための残念である。伝記は、三回読むものである。少年時代、成人になってと晩年ゆ

つくり、作者紹介より伝記読書にはいる。助言者は、マンガは読書習慣を作るのによいか？は、現在論争中である。マンガも地理歴史科学マ

ンガを与え、二人読みし話し合いをさす。創作マンガは何回も読む、いろいろな本に出合う事必要。読書は、人間の健康度を示して

いる。知識健康運動等物事に真剣に取り組んでいる人程読書をしている。読書する事により読解力ができ、読解力が悪いから読書しないのではない。読書の計画があれば、読書は進む、計画があるのに進まないのは、読書指導に迷いがある。真剣に読書している子どもは、受験勉強も大丈夫である。

第一に読書量をふやす。

第二は読書方向を指導する。

第三は子ども自身目を見開く内容。

第四は対話出合必要、親と子、子と教師。

第五は真理真実を知らず。

第六は読書による研究方法を大切に

にする。

第七は読んだら書く習慣、感想文でなくてもよい。読書記録でもよい。

第八は読書をささえる物とし例

えば読み聞かせ子どもの心のゆさ

ぶり、探究心のゆさぶりである。

探究心を、多様面を一气に求めるのはまずい。一方向だけでも追求する事が大切である。

子どもの坐折感を打ち越えた指導を求める事が大切でと、あと結

んだ。

吾々一行は、いろいろ反省をし

又次の指導へと異同同音感じつつ

会場を後にしました。

★ ☆ ☆

### 馬路中堂々五位に入賞 —高新中学駅伝— 中芸駅伝では二連勝 魚梁瀬中Aも三位

第十七回中芸地区中学校駅伝競争は、十二月十八日、安芸郡安田町唐浜から田野町、奈半利町、北川村を経て安田中学校までの四〇・六キロコースに十二チームが参加して行われ、馬路中Aが二年連続優勝し、魚梁瀬中Aも健闘よく三位に入賞しました。

なお、馬路中は高新駅伝でも四位入賞の大活躍をしました。

中芸駅伝大会の結果は次のとおりです。

(新) は区間新記録

1 馬路中A

二時間二十四分十七秒

谷井浩(1)村山康博(4)南木

義伸(5)五味隆仁(新)谷正義

(2)小野真利夫(1)浅井唯志

(1)田中正義(新)

3 魚梁瀬中A

二時間二十九分三十八秒

## 短歌・俳句

### 馬路中学校生徒作品

二年 岡嶋 加枝  
北国よりさけの塩づけとどきけり  
友の情けをしのびつゝ、いる

三年 北岡 一恵

さざん花の咲く道こえて登校す  
大空に伸びかたむける冬木立

せりをとる老婆の顔にはほえみが

三年 中屋 理香

声ばかりみんなにぎやか初詣

三年 比奈岡由美

初雪やいつもとちがう外の声

三年 池田 美保

冬の水一つの影もあざむかず

三年 木下 英美

初雪やよろこび駆ける子供供いゆ

冬の夜雪しんしんとふりつもる

三年 谷 正義

窓ごしにまぶしく光る白い雪

乾 ひとみ

秋の山夕焼のように色づいて

人の心をなごませるなり

++++++++++++++++++++

手島泰(3)平政彦(1)小原章

一(7)坂本公男(7)萩野和也

(6)細川正明(3)中屋良弘(

6)伊藤昭弘(3)

5 馬路中B

二時間三十三分二十八秒

11 魚梁瀬中B

二時間四十二分三十二秒

大根をあらう祖母の掌まっかつか

あかぎれて苦痛にゆがむ祖母の顔

教室の窓をあければ冬の風

思わずちぢむわが肩のひふ

比奈岡由美

いちようの葉窓にこつこつあたる夜

朝早く音たてている秋の風

岡嶋 加枝

足音におどろき飛びたつ寒すずめ

激流に流れながれる落葉かな

葉がおちてさむぎ見えるポプラかな

冬の道灯火たよりに急ぎゆく

安田川紅葉の色をうつつして流る

北岡 一恵

いちよう散り冬のおとすれ知りはじめ

夕暮れの木枯しの道掃りゆく

池田 美保

安田川落葉とともに流れゆく

谷 正義

秋の川季節はずれのもつご見ゆ

初霜にさむくないかな川もつご

安田川の秋のもつごはかなしそう

木下 英美

秋風や野山をかけて走りゆく

黄もみじ風に吹かれてとにちるやら

中屋 理香

教室の窓から見える冬の川

冬の雨身をさくようにふりかかる

田中 正義

秋の空赤玉のんだかまつかつか